

DAS-JAPAN NEWS

最新ニュース

創刊号：2010年7月7日

1. DASジャパンが最高の評価を得る！

ISO専門誌「アイソス」の本年2月号に、認証機関の格付け調査結果が掲載されました。この調査は各々の登録組織が現在登録されている認証機関に対してアンケートに答えたものを、そのままアイソス編集部が集計したのですが、DASジャパンは、掲載された約40機関の中でいずれの項目についてもトップの評価を頂きました。アンケートに率直にご回答頂いた登録組織の皆様、誠にありがとうございました。（詳細はDASジャパンWEB参照）

2. DAS認証機関が世界に拡大！

最近の英国DAS本部からの連絡によれば、2010年3月現在で、世界の拠点数が約40か所まで拡大されたそうです。目新しいところでは北米のテキサス州、オーストラリア、ブラジル、チリ、ロシア、エジプトなどです。アジアでは、日本の他に、韓国、上海、台湾、シンガポール、フィリピン、インドネシア、ベトナムなど多岐に及んでいます。世界のDASによる認証件数は3万件を超え、英国の認証機関の中で上位5番以内に入っています。（詳細はDASジャパンWEB参照）

3. 国際規格ISO26000が国際規格として今秋発行予定！

この国際規格は、「社会的責任に関する手引き」として発行されるもので、ISO9001や14001のように組織のISO認証としての活用は意図されておらず、ガイドラインとしての位置づけです。しかしこのシステムの構築は組織にとってきわめて重要な意味合いがあります。というのは昨今国を含めた組織の不祥事が後を絶たず、まさに組織の社会的責任が問われているからで、このガイドラインが大いに役立つからです。

4. ISO26000に関する原稿執筆！

DASジャパン代表の萩原睦幸の執筆による「CSRの実際」がISO専門誌「ISOマネジメント」（日刊工業新聞社）の本年9月号の特集記事に約50ページにわたり掲載されます。この内容は、前項の国際規格ISO26000の要求事項をわかりやすく解説したもので、この記事を参考にすることで社会的責任のシステムが構築できます。もし本誌のご購入を希望される場合は、2割引（1100円）で入手できます。

5. エネルギーマネジメントの国際規格ISO5001が来年発行予定！

今世界的にエネルギー需要がひっ迫し危機的状況になりつつあります。そこで開発されたのがこの国際規格ISO5001で、これはISO認証の対象規格です。現在DIS段階ですが、今後FDISを経て来秋発行予定とのこと。この規格のベースとなっているのは、欧州規格のEN16001（2009年7月発行）で、やはり欧州が先行しています。規格の要求事項の内容は、ISO14001に酷似していて、ISO14001の「環境側面」に対してISO5001では「エネルギーレビュー」が、ま

た「運用管理」に対して、「エネルギー施設・設備の計画・設計」が相当します。システムの構築は、ISO14001に本規格特有の要求事項を追加すれば簡単に構築できます。

DASジャパンから

審査での客観的証拠！

ISOの審査は、現場で「客観的証拠」を確認しながら行うのが基本とされています。さて、ここでいう客観的な証拠についてかなり誤解されているようです。たいていの審査員が客観的な証拠として「記録」を要求しますが、これだけでは誤りです。証拠として一番重要視すべきは、現場での観察結果でしょう。ISO9000「QMS—基本及び用語」でも、客観的な証拠を得る手段として、観察という言葉が強調されています。「百聞は一見にしかず」という言い古された言葉がありますが、まさに審査現場での観察は一度に多くのことを感知できてしまいます。記録は簡単に偽造できますが、現場の状況は簡単にはごまかせないといわれる所以です。

ISO9001:2008 規格解釈「8.2.3 プロセスの監視・測定」

ISO9001の要求事項の中で、きわめて難解な要求事項のひとつです。案の定世界の国々からISO本部に質問が寄せられ、2008年版では「注記」が追加されました。注記では、「QMSの有効性の影響に応じて個々のプロセスの監視・測定の程度を考慮することを推奨する」と記述されました。この意図は、「現状のQMSの有効性が懸念されるプロセスに注目し、そこを中心に監視・測定する」と置き換えてもよく、的を得た注記だと思われます。具体的なシステム構築としては、内部コミュニケーションなどを活用して、現状のQMSのどの部分に不足があるのかを、皆で絞り込み、そのプロセスをターゲットに監視・測定する仕組みがシンプルで効果的だと思われます。例えば検査ミスがなかなか減らないのであれば、検査の手順に問題があるのか、検査員の個人的力量に問題があるのかをあらかじめ調査しておき、その原因を撲滅しプロセスを是正するのがこの要求事項の意図するところです。

認証機関裏話！

弊認証機関は英国系認証機関であり、審査リーダーは審査終了後 audit report(審査報告書)をすべて英文でまとめなければなりません。品質、環境、情報セキュリティ各々の報告書はかなりの分量で、品質は50ページ、環境は40ページ、情報セキュリティは70ページほどあります。従いまして、リーダーは英語に堪能でなければならず、審査後の審査報告書のまとめが大仕事です。それに加え、英文に翻訳する前の日本語が第3者にわかりやすくまとめられているかも問われます。翻訳前の日本語の意味がさっぱりわからないのでは、英語に通じるはずはないからです。しかし少し慣れば毎回言い回しは似ていますので、かなり楽にまとめることができます。(審査リーダー H. H 談)

(編集責任者 朝倉潤子)



ISO 認証機関 DASジャパン株式会社
東京都豊島区東池袋 4-27-5 LP池袋9F
代表取締役 萩原睦幸

Tel 03-6666-0501 Fax 03-6666-0594

<http://www.das-japan.jp> info@das-japan.jp